

2023年4月2日

礼 拜

聖書

創世記29章21～35節

29:21 ヤコブはラバンに言った。「私の妻を下さい。約束の日々が満ちたのですから。彼女のところに入りたいのです。」29:22 そこでラバンは、その土地の人たちをみな集めて祝宴を催した。29:23 夕方になって、ラバンは娘のレアをヤコブのところに入れて行ったので、ヤコブは彼女のところに入った。29:24 ラバンはまた、娘のレアに、自分の女奴隷ジルパを彼女の女奴隷として与えた。

29:25 朝になって、見ると、それはレアであった。それで彼はラバンに言った。「あなたは私に何ということをしたのですか。私はラケルのために、あなたに仕えたのではありませんか。なぜ、私をだましたのですか。」29:26 ラバンは答えた。「われわれのところでは、上の娘より先に下の娘を嫁がせるようなことはしないのだ。29:27 この婚礼の一週間を終えなさい。そうすれば、あの娘もあなたにあげよう。その代わり、あなたはもう七年間、私に仕えなければならない。」

29:28 そこで、ヤコブはそのようにした。すなわち、その婚礼の一週間を終えた。それでラバンは、その娘ラケルを彼に妻として与えた。29:29 ラバンは娘のラケルに、自分の女奴隷ビルハを彼女の女奴隷として与えた。29:30 ヤコブはこうして、ラケルのところにも入った。ヤコブは、レアよりもラケルを愛していた。それで、もう七年間ラバンに仕えた。29:31 【主】はレアが嫌われているのを見て、彼女の胎を開かれたが、ラケルは不妊の女であった。

29:32 レアは身ごもって男の子を産み、その子をルベンと名づけた。彼女が、「【主】は私の悩みをご覧になった。今こそ夫は私を愛するでしょう」と言ったからである。

29:33 彼女は再び身ごもって男の子を産み、「【主】は私が嫌われているのを聞いて、この子も私に授けてくださった」と言って、その子をシメオンと名づけた。

29:34 彼女はまた身ごもって男の子を産み、「今度こそ、夫は私に結びつくでしょう。私が彼に三人の子を産んだのだから」と言った。それゆえ、その子の名はレビと呼ばれた。

29:35 彼女はさらに身ごもって男の子を産み、「今度は、私は【主】をほめたたえます」と言った。それゆえ、彼女はその子をユダと名づけた。その後、彼女は子を産まなくなった。

説教
人の欺きと神の慰め

イスラエルの南の端、ベエルシェバから北上して、
ルズの地、ベテルを通過して、肥沃な三日月地帯
のハランの間、1000キロほどの道のりを多くの人々
が旅をしました。

アブラハムはこの街道を北から南に、主に導かれて、
信仰によって、主の示される祝福を継承するため、知
らない約束の地に向かって歩きました。

アブラハムのしもべは祝福を継承するイサクのパート
ナーを求めて信仰によってこの街道を北上して、リベ
カさんに出会いました。

リベカさんもイサクのパートナーとなって祝福を継承す
るため、信仰を持って始めて歩く未知の世界へこの
街道を南へ旅しています。

ヤコブはこの街道を追われるようにして
北に向かって旅をして、
ベテルで主なる神様と出会って
生まれ変わって神の子とされて
さらにこの街道を北に向かって旅を続け、
ハランの井戸端でラケルと出会っています。

祝福の継承、バトンタッチ、たすきをつなぐ大きな使命がアブラハムの子孫に与えられています。

救い主はアブラハムの子孫から生まれる、この祝福を絶えさせないため、神様は御計画を立てられ、また継承者のところにその思いを授けておられます。

救い主イエス様を人の子としてこの地上で生まれていただくためにアブラハムの子孫は祝福をつなぐ使命が与えられています。

マタイ1章、新約聖書の冒頭、この祝福のたすきつなぎが完了して、ヨセフ、マリヤからイエス様がお生まれになりました。

イエス様の十字架と復活の後の時代の私たちはこの救いの恵みを次の世代に継承する使命を与えられています。

家族の救い、子供、孫たちの救いのため、
この祝福を伝えて行く使命が与えられています。

教会学校、家庭集会、キャンプ・・

あらゆる機会を通して救いが伝えられて行くことを願っています。

一人で出来なくても協力することも大切です。

子供伝道のやりやすい時代、場所、

又難しい時代や環境もあります。

でも主はすべてご存じです。困難な環境の人に祝福があります。

ハランの町の井戸端でも
いろんな出合いがありました。

アブラハムのしもべは明確な目的を持って旅をしています。アブラハムに与えられた祝福をイサクが継承し、イサクのパートナーとなって祝福を共にする配偶者と出会えることを祈りつつ、ハランの井戸端に到着し、水を求めたときに喜んで水を与えてくれる女性こそ御心に人と祈って旅を続けていました。

まさに御心通りの女性、リベカさんに出会い、イサクのパートナーとなっています。

ヤコブも同じ道を旅して、ハランの井戸端にたどりついています。そこで母リベカの兄、ラバンの娘、ラケルと出会っています。直ぐに感動して口づけをして、ラケルを妻に下さいとラバンに申し出ています。

アブラハムのしもべは祈って、主を礼拝して、御心になかった女性に出会わせてくださいと祈ってリベカに出会いました。

ここがアブラハムのしもべとヤコブの違いです。

確かにヤコブは救われて、神様の子となっています。でもまだまだ未熟なクリスチャンです。

ハランの井戸端まで逃れて来ましたが、主への感謝も祈りもありません。

井戸端であなた方は誰ですか、と聞き、これから尋ねようとしているラバンをよく知っている人で、その娘のラケルが羊を連れてまもなく来ますよと聞いています。

アブラハムのしもべは感謝して祈りましたが

ヤコブには主への礼拝も祈りもありません。ラケルと二人っきりになりたいので、ハランの羊飼いに、早く羊に水を飲ませて帰って行ったら如何ですか、と自分の思いを伝えています。

ラケルが来ると口づけして、ラケルの羊のために、勝手に石を転がして水を飲ませています。

リベカは遠くから来た見知らぬ旅人とラクダに水を飲ませました。旅人への愛の現われです。ヤコブもラケルの羊に水を飲ませました。理由、動機はアブラハムのしもべと違います。旅人への愛ではなく、一目惚れをしたラケルにいい格好をする、自己中心の行為でした。ラケルに親切をしましたのは悪いことではありません。でも信仰から出た行為ではありません。祈って主に御心を求めて行った霊的な行為でもありません。

ローマ書14章23節には
「信仰から出ていないことは、みな罪です。」
厳しいことばが書かれています。

ヤコブはベテルで神様からおことばを受け、
天からののはしごの幻を見せていただき、
信仰の人と変えられました。

ベエルシェバを出発する時、建前ではありますが
叔父ラバンの所に行って、信仰を同じくするパートナー
を捜しに行きます、と言っています。

ハランの井戸端に着いて、ここはどこですか、あなた方は誰ですか、と尋ねた時、ここはハランで、ラバンさんも良く知っています。ほら、ラバンの娘のラケルが羊を連れて来ます。

この時、ヤコブは祈るべきであり、ここまで導いてくださった主を礼拝して、感謝を献げるべきでありましたが、衝動的な行動に走っています。

井戸端で出会ったラバンの娘、ラケルがパートナーとなって、アブラハムから継承している祝福を享受するパートナーか否か、と言う思い、祈りがここには全く現れていません。

何の為に長子の権を奪ったのか、何の為に母リベカの共謀してイサク、エサウを欺いて祝福を奪い取ったのか。

このラバンの所への旅はこの祝福のパートナー捜しであったのに今のヤコブにはそれが全く欠落しています。

ヤコブはラケルを妻に迎えるためにラバンの下で7年間、
働きました。

ヤコブはラバンが好きであったので、その7年も数日のよ
うに思われたと書いてあります。

7年経ってもラバンは何も言いません。しびれを切らした
ヤコブは、叔父様、約束の7年が経ちました。

ラケルさんを下さい。

ラバンはヤコブが請求するまで放っておきました。

29:23 夕方になって、ラバンは娘のレアをヤコブのところに連れて行ったので、ヤコブは彼女のところに入った。

29:25 朝になって、見ると、それはレアであった。それで彼はラバンに言った。「あなたは私に何ということをしたのですか。私はラケルのために、あなたに仕えたのではありませんか。なぜ、私をだましたのですか。」

7年間働いて、やっとラケルを妻に出来ると思ったのに、テントに入ってヤコブを待っていたのはラケルではなく姉のレアでした。深夜の闇の中で相手の顔は良く見えません。レアはラケルの着物を着せられていたかも知れません。新婚ということで、毛皮をかぶるのではなく、ベールをかぶり厚化粧をしていてラケルと思い込んでいました。朝になって明るくなってヤコブはレアと気がつきました。烈火のごとく怒ってラバンに抗議しました。

29:26 ラバンは答えた。「われわれのところでは、上の娘より先に下の娘を嫁がせるようなことはしないのだ。

29:27 この婚礼の一週間を終えなさい。そうすれば、あの娘もあなたにあげよう。その代わり、あなたはもう七年間、私に仕えなければならない。」29:28 そこで、ヤコブはそのようにした。

ヤコブはもう7年、ラケルのためにただで働かなければならなくなりました。狡猾なラバンに乗せられました。
この7年はどんな気持ちで働いたのでしょうか。

ここでヤコブは狡猾なラバンの下で苦難、試練、
だまされる取り扱いを受けます。

欺いたヤコブが欺かれて、神様からの訓練を受けて聖
なるしもべに成長していきます。

ラバンがヤコブを欺いてレアを押しつけた情景はヤコブ、リベカがイサクを欺いた情景と似ています。

イサクは老齢で目が見えなくなっていた。

ヤコブの肉眼は見えたが、天幕の中、夜のとばりの中、

レアとラケルの区別がつかなかった。

ヤコブは毛皮をかぶって欺き、レアは厚化粧して欺き、

ヤコブはエサウの衣を着て欺き、レアはラケルの衣を身

にまとってヤコブを欺きました。

ヤコブは飢え渴いているエサウから一杯のレンズ豆の
スープで長子の権を奪い取りました。

ラバンは娘ラケルに飢え渴いているヤコブから14年の
労働を奪い取りました。

欺いて来たヤコブは叔父ラバンから同じ欺きを受けるこ
とを通して自分の罪と向き合い、
真の悔い改めに導かれて行きました。

29:30 ヤコブはこうして、ラケルのところにも入った。ヤコブは、レアよりもラケルを愛していた。それで、もう七年間ラバンに仕えた。

アブラハムが二人の妻、ハガルとサラの争いの中で14年訓練を受けてイサクが与えられました。ヤコブもラバンに欺かれて二人の妻と二人の女奴隷をあてがわれて、試練、苦難の日々が続きます。

ヤコブ、レア、ラケル、この3人の中でレアがまず神様に
取り扱われて行きます。

父ラバンの欲のために利用された女性。

元々ラバンの家はアブラハムの親戚というだけで
ここから信仰に生きている家族ではありません。

家の中に偶像を持っている家庭。

その中でレアが苦難の中で真の信仰を持って生きるよう
になって行きます。

29:31 【主】はレアが嫌われているのを見て、彼女の胎を開かれたが、ラケルは不妊の女であった。

29:32 レアは身ごもって男の子を産み、その子をルベンと名づけた。彼女が、「【主】は私の悩みをご覧になった。今こそ夫は私を愛するでしょう」と言ったからである。

レアは夫から愛されていない。父ラバンからも道具のように扱われています。しかし、神様から愛され、神様の愛を知るようになった。

身ごもって男の子を産んだ。

名をルベン、神様は見ていてくださる、私の苦しみをしっかりと見つめていてくださる、と信仰の告白をしてルベンと名付けました。

29:33 彼女は再び身ごもって男の子を産み、「【主】は私が嫌われているのを聞いて、この子も私に授けてくださった」と言って、その子をシメオンと名づけた。主は聞いてくださる、私の祈りを聞いてくださった、私の苦悩の中の叫びを聞いてくださった、と告白しています。

29:34 彼女はまた身ごもって男の子を産み、「今度こそ、夫は私に結びつくでしょう。私が彼に三人の子を産んだのだから」と言った。それゆえ、その子の名はレビと呼ばれた。

レビとは結ぶと言う意味です。夫が今度こそ結びついてくれると期待してレビと名をつけました。

夫とは結びつかずとも、主とはしっかりと結ばれています。

29:35 彼女はさらに身ごもって男の子を産み、「今度は、私は【主】をほめたたえます」と言った。それゆえ、彼女はその子をユダと名づけた。」

四番目の子はユダです。このユダの子孫からダビデが生まれ、ダビデの子孫からイエス様が生まれ、アブラハムへの祝福をレアが産んだユダが継承することになって行きます。

本来、ベテルで素晴らしい神様との出会い、救いの
経験をしたヤコブでしたが、まだまだ未熟な信仰。
そんな谷間のような中で、人からの愛を十分に受け
ることの出来ないレアが神様から愛され、取り扱いを
受けて、主に見つめられている主のまなざしを体験し、
主が祈りを聞いて下さる確信に生き、主としっかりと
結びつき、主をほめたたえる女と成長して行きました。
人に愛されない不遇な中で、レアは主の愛を一杯
受けて歩んで行きました。

回り道のようにではありますが、ヤコブの家族でレアが一番最初に主の恵みを受ける女性となって輝いて行きました。

人生どん底の逃避行の中、主はベテルでヤコブに出会ってくださいました。

夫から愛されない、父に利用されてヤコブの所に押しつけられた悲しみのレアに主は現れて下さいました。

人に利用される、行きたくないところに行かなければならない、愛してほしい方から愛を受けられない
どん底の時にも主は、ヤコブに、又レアに現れて
励まし慰めを与えて下さいました。

私たちも人ではなく、主を仰ぎ、主に期待しましょう。

祈り。